

学校コード F126310107662
注3

設置年度 令和 5年度
計画の区分： 研究科の専攻の設置又は課程の変更
注1

届出

注2
京都芸術大学大学院 芸術研究科 芸術環境専攻（修士課程）

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 （改正前大学設置基準適用）

学校法人瓜生山学園
令和5年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	教学支援二課
職名・氏名	カチョウ オカムラジロウ 課長・中村次郎
電話番号	075-791-9125（内線：3052）
（夜間）	075-791-9122
e-mail	kyoumu@office.kyoto-art.ac.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

芸術研究科

＜芸術環境専攻（修士）＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	12
4. 既設大学等の状況	13
5. 教員組織の状況	14
6. 附帯事項等に対する履行状況等	38
7. その他全般的事項	39

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人瓜生山学園

(2) 大 学 名

京都芸術大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒606-8271

京都府京都市左京区北白川瓜生山2-116

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(トクヤマ ユタカ) 徳山 豊 (平成26年7月)		
学 長	(ヨシカワ サキコ) 吉川 左紀子 (令和3年4月)		
研究科長	(ウエムラ ヒロシ) 上村 博 (令和元年4月)		
専攻長	(サトウ ヒロカズ) 佐藤 博一 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
 (例) 令和4年度に報告済の内容 → (4)
 令和5年度に報告する内容 → (5)
 ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
 ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
 ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合(令和5年度までの6年間)ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)」により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
大学院芸術研究科 芸術環境専攻 修士(芸術) 修士(学術)	美術関係	2 年	180 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	360 人		R5年度開設

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。(学生募集停止を予定していない場合は「-」を選択。)

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		平均入学 定員超過率	平均入学 定員超過率 (控除後)	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期					
A 入学定員	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	人 () []	180人 180 () []	1.06倍	— 倍	1.06倍	— 倍		
志願者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	765 [732]						
受験者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	765 [732]						
合格者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	234 [206]						
B 入学者数	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	() []	191 [164]						
入学定員超過率 B/A	-		-		-		-		-		1.06						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
 ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「-」を記入してください。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
 また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。
計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 ・ 「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「-」としてください。
 ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 ・ 「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「-」としてください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	191 [164] (-)	- [-] (-)	
2 年次			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3 年次					- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
4 年次							- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
計			- [-] (-)	- [-] (-)			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	191 [164] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
令和5年度	192 人	0 人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	人	人	
			令和5年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{192} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜芸術研究科 芸術環境専攻＞

(1) ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
科目区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
専攻共通科目	芸術文化論特論1	1・2前	2			2						
	芸術文化論特論2	1・2後	2			2						
	芸術環境原論1	1・2前		2		1	1					
	芸術環境原論2	1・2後		2		1						兼1
	芸術環境原論3	1・2前		2		1						兼2
	芸術環境原論4	1・2後		2		1						兼1
	芸術環境原論5	1・2前		2		1						兼1
	芸術環境原論6	1・2後		2								兼1
	芸術原論1	1・2前		2								兼1
	芸術原論2	1・2後		2								兼1
	芸術原論3	1・2前		2		1						
	芸術原論4	1・2通年		2								兼1
	芸術原論5	1・2後		2		1						
	芸術原論6	1・2後		2			1					
	制作行為原論1	1・2通年		2								兼1
	制作行為原論2	1・2通年		2								兼1
制作行為原論3	1・2通年		2								兼1	
制作行為原論4	1・2通年		2								兼1	
制作行為原論5	1・2通年		2								兼1	
制作行為原論6	1・2通年		2								兼1	
小計(20科目)	－		4	36	0	8	2	0	0	0		
分野特論	芸術環境分野特論1	1・2通年		4		1						
	芸術環境分野特論2	1・2通年		4		1						兼1
	芸術環境分野特論3	1・2通年		4		1						
	芸術環境分野特論4	1・2通年		4		1						
	芸術環境分野特論5	1・2通年		4		2						
	芸術環境分野特論6	1・2通年		4		1						兼1
	小計(6科目)	－		0	24	0	6	0	0	0	0	
研究指導科目	芸術環境演習1	1前	4			10	1					兼4
	芸術環境演習2	1後	4			10	1					兼4
	建築総合演習	1通年			8	1						
	芸術環境研究1	2前	4			10	1					兼4
	芸術環境研究2	2後	4			10	1					兼5
	建築総合研究	2通年			8	1						
小計(6科目)	－		16	0	16	10	1	0	0	0		
特別開講科目	学術基礎1	1・2前			2							兼1
	学術基礎2	1・2前			4	1						
	学術基礎3	1・2前			4	1						
	学術基礎4	1・2後			2		1					
	学術基礎5	1・2前			4	1						
	学術基礎6	1・2後			4	1						
	学術基礎7	1・2後			4	1						
	比較芸術環境論演習	1・2通年		2								兼1
	建築実務演習1	1・2通年			4	1						
	建築実務演習2	1・2通年			4	1						
	建築実務演習3	1・2通年			4	1						
	建築実務演習4	1・2通年			4	1						
	建築実務演習5	1・2通年			4	1						
小計(13科目)	－		0	2	44	3	1	0	0	0		
合 計 (45科目)		－	20	62	60	27	4	0	0	0		

【令和5年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	兼 任・ 兼 担
専攻共通科目	芸術文化論特論1	1・2前	2			1					
	芸術文化論特論2	1・2後	2			1					
	芸術環境原論1	1・2通年		2		1	1				
	芸術環境原論2	1・2通年		2				1			
	芸術環境原論3	1・2通年		2		1					
	芸術環境原論4	1・2通年		2			1				
	芸術環境原論5	1・2通年		2		1					兼1
	芸術環境原論6	1・2通年		2							兼1
	芸術原論1	1・2前		2							兼1
	芸術原論2	1・2後		2							兼2
	芸術原論3	1・2前		2							兼1
	芸術原論4	1・2前		2		1					
	芸術原論5	1・2後		2		1					
	芸術原論6	1・2後		2		2					兼6
	制作行為原論1	1・2通年		2							兼2
	制作行為原論2	1・2通年		2							兼2
分野特論	制作行為原論3	1・2通年		2							兼5
	制作行為原論4	1・2通年		2							兼1
	制作行為原論5	1・2通年		2							兼2
	制作行為原論6	1・2通年		2							兼2
	小計(20科目)	－	4	36	0	8	2	1	0	0	
	芸術環境分野特論1	1・2通年		4		5	4	1			
	芸術環境分野特論2(未開講)	2通年		4		1					
研究指導科目	芸術環境分野特論3	1・2通年		4		4					兼1
	芸術環境分野特論4	1・2通年		4		3	1				兼2
	芸術環境分野特論5	1・2通年		4		1					兼7
	芸術環境分野特論6	1・2通年		4		1					兼6
	小計(6科目)	－	0	24	0	12	5	1	0	0	
	芸術環境演習1	1前		4		20	6	3			兼23
	芸術環境演習2	1後		4		20	6	3			兼23
特別開講科目	建築総合演習	1通年			8	1					兼1
	芸術環境研究1(未開講)	2前		4		20	6	3			兼23
	芸術環境研究2(未開講)	2後		4		20	6	3			兼23
	建築総合研究	2通年			8	1					
	小計(6科目)	－	16	0	16	20	6	3	0	0	
	学術基礎1	1・2前			2						兼2
	学術基礎2	1・2通年			4						兼5
合計(45科目)	学術基礎3	1・2前			4	1					
	学術基礎4	1・2後			2						兼1
	学術基礎5	1・2後			4						兼1
	学術基礎6	1・2前			4	1					
	学術基礎7(未開講)	1・2後			4	1					
	比較芸術環境論演習(未開講)	1・2通年		2							兼1
	建築実務演習1	1・2通年			4	1					
	建築実務演習2	1・2通年			4	1					
	建築実務演習3	1・2通年			4	1					
	建築実務演習4	1・2通年			4	1					
	建築実務演習5	1・2通年			4	1					
	小計(13科目)	－	0	2	44	2	0	0	0	0	
合計(45科目)		－	20	62	60	42	13	5	0	0	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和4年度開設であれば令和3年度以前)の表は適宜削除してください。
 - (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務実習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧シートを分けてご作成ください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・科目責任教員1名による全体統括を行うため、「芸術文化論特論1・2」の教員配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・オンデマンド科目として学生の通年での履修を可能としたため、「芸術環境原論1～6」の配当年次を「1・2前」及び「1・2後」から「1・2通年」に変更。
- ・教育課程の見直しに伴い、「芸術環境原論2」の教員配置を「教授1」「兼1」から「講師1」に変更。
- ・教育課程の見直しに伴い、「芸術環境原論4」の教員配置を「教授1」から「准教授1」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「芸術原論2」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・教育課程の見直しに伴い、「芸術原論3」の教員配置を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・教育課程の見直しに伴い、「芸術原論4」の配当年次を「1・2通年」から「1・2前」に変更。
- ・科目内容の見直し（オムニバス化）により、「芸術原論6」の教員配置を「准教授1」から「教授2」「兼6」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「制作行為原論1」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「制作行為原論2」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・科目内容の見直し（オムニバス化）により、「制作行為原論3」の教員配置を「兼1」から「兼5」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「制作行為原論5」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「制作行為原論6」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・科目内容の見直し（オムニバス化）により、「芸術環境分野特論1」の教員配置を「教授1」から「教授5」「准教授4」「講師1」に変更。
- ・教育課程の見直しにより、「芸術環境分野特論2」の配当年次を「1・2通年」から「2通年」に変更。
- ・科目責任教員1名による全体統括を行うため、「芸術環境分野特論2」の教員配置を「教授1」「兼1」から「教授1」に変更。
- ・科目内容の見直し（オムニバス化）により、「芸術環境分野特論3」の教員配置を「教授1」から「教授4」「兼1」に変更。
- ・科目内容の見直し（オムニバス化）により、「芸術環境分野特論4」の教員配置を「教授1」から「教授3」「准教授1」「兼2」に変更。
- ・科目内容の見直し（オムニバス化）により、「芸術環境分野特論5」の教員配置を「教授1」から「兼7」に変更。
- ・科目内容の見直し（オムニバス化）により、「芸術環境分野特論6」の教員配置を「教授1」「兼1」から「教授1」「兼6」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「芸術環境演習1」の教員配置を「教授10」「准教授1」「兼4」から「教授20」「准教授6」「講師3」「兼23」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「芸術環境演習2」の教員配置を「教授10」「准教授1」「兼4」から「教授20」「准教授6」「講師3」「兼23」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「建築総合演習」の教員配置を「教授1」から「教授1」「兼1」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「芸術環境研究1」の教員配置を「教授10」「准教授1」「兼4」から「教授20」「准教授6」「講師3」「兼23」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「芸術環境研究2」の教員配置を「教授10」「准教授1」「兼4」から「教授20」「准教授6」「講師3」「兼23」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「芸術基礎1」の教員配置を「兼1」から「兼2」に変更。
- ・オンデマンド科目として通年での履修を可能としたため、「芸術基礎2」の配当年次を「1・2前」から「1・2通年」に変更。
- ・指導体制拡充のため、「芸術基礎2」の教員配置を「兼1」から「兼5」に変更。
- ・教育課程の見直しに伴い、「芸術基礎4」の教員配置を「准教授1」から「兼1」に変更。
- ・教育課程の見直しに伴い、「芸術基礎5」の専任教員等の配置を「教授1」から「兼1」に変更。
- ・教育課程の見直しにより、「芸術基礎6」の配当年次を「1・2後」から「1・2前」に変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
6 科目	25 科目	14 科目	45 科目	6 科目 [0]	25 科目 [0]	14 科目 [0]	45 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	芸術環境分野特論2	4	2通年		選択	配当年次が2年次へ変更になったため
2	芸術環境研究1	4	2前		選択	2年次からの配当科目のため
3	芸術環境研究2	4	2後		選択	2年次からの配当科目のため

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

「芸術環境分野特論2」は、教育課程の見直しに伴い、科目の順次性を考慮して配当年次を「1・2通年」から「2通年」に変更した。カリキュラム及びシラバス公開を行う前の段階において配当年次の変更となったため、学生へは2年次配当科目として当初より周知しており、混乱は生じなかった。

「芸術環境研究1・2」は計画時より2年次配当科目のため、令和5年では開講しない予定であった。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{3}{45} = \boxed{6.66} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積 ・ 18,501㎡(運動場) ・ 321.08/360.27㎡(瓜生山校地) 借用期間：60年 ・ 4,102.16㎡(外苑キャンパス)借用期 間：20年 ・ 京都芸術大学附属高校(通称制) と共用(収容定員630名)、認可 保育園こども芸術大学(必要面積 174.9㎡)と共用(収容定員60名) 変更理由：41.52㎡を取得2022年 度、上野瓜生山校地借用面積の数 値間違い(29.19㎡はその他)			
	校 舎 敷 地	67,837.94 67,825.61㎡	6,927.50㎡	720.00㎡	75,485.44 75,473.11㎡				
	運動場用地	18,501.00㎡	0㎡	0㎡	18,501.00㎡				
	小 計	86,338.94 86,326.61㎡	6,927.50㎡	720.00㎡	93,986.44 93,974.11㎡				
	そ の 他	35,810.58 35,781.39㎡	0㎡	0㎡	35,810.58 35,781.39㎡				
	合 計	122,149.52 122,108.00㎡	6,927.50㎡	720.00㎡	129,797.02 129,755.50㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	借用面積 ・ 外苑キャンパス 3,096.89㎡借用期 間：20年 ・ 大塚野村キャンパス 466.92㎡ 借用期間：5年 京都芸術大学附属高校(必要面積 1200㎡)と共用(収容定員630名) 認可保育園こども芸術大学(必要 面積128.04㎡)と共用(収容定員 60名) 変更理由：63.4㎡を取得/2022年 度				
	64,183.02 64,119.62㎡ (64,183.02 64,119.62㎡)	4,503.90㎡ (4,503.90㎡)	2,293.91㎡ (2,293.91㎡)	70,980.83 70,917.43㎡ (70,980.83 70,917.43㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	変更理由：講義室-教室統合2022 年度、演習室-数値間違い			
	30 35室	225 206室	0室	0室 (補助職員0人)	0室 (補助職員0人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		変更理由：増加2022年度 46 43 室			
	大学全体								
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	変更理由：破損・汚損等除籍、学 術雑誌拡充	
		173,090 [19,002] 174,984 [19,412] (172,655 [19,101]) (173,226 [19,129])	1,191 [132] 1,173 [138] (1,183 [135]) (1,172 [136])	213 [152] (213 [152])	10,704 11,587 (10,880) (11,406)	18,500 (18,500)	194 (194)		
		173,090 [19,002] 174,984 [19,412] (172,655 [19,101]) (173,226 [19,129])	1,191 [132] 1,173 [138] (1,183 [135]) (1,172 [136])	213 [152] (213 [152])	10,704 11,587 (10,880) (11,406)	18,500 (18,500)	194 (194)		
	計	173,090 [19,002] 174,984 [19,412] (172,655 [19,101]) (173,226 [19,129])	1,191 [132] 1,173 [138] (1,183 [135]) (1,172 [136])	213 [152] (213 [152])	10,704 11,587 (10,880) (11,406)	18,500 (18,500)	194 (194)		
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			変更理由：座席数の調整	
	2,132.13㎡		452 455		136,667				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要					大学全体	
	980.61㎡		該当なし						
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	大学全体 教育研究経費ではなく、人件費の 「研究手当」として1人当り300千 円を支給。 図書費には電子ジャーナル・データベース の整備費(運用コスト)を含む。
		教員1人当り研究費等	300千円 9千円	300千円 9千円	図書購入費	7,000千円	148,00千円 7,500千円	28,500千円 8,000千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	150,000千円	796,812千円 250,000千円	706,000千円 200,000千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		970千円	770千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和5年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(5)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称						平均入学定員超過率0.7倍以下の学科数	0	平均入学定員超過率1.15倍以上の学科数	2	収容定員充足率0.7倍以下の学科数	0	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	2
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	平均入学定員超過率(控除後)	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考
大学院芸術研究科修士課程	2	240	年次人	480	修士(芸術)(芸術)	1.21	—	1.09	1.06	令和5	平成27	京都市左京区北白川瓜生山2-118	令和5年度より募集定員(60人→240人)
芸術専攻	2	60	—	120	修士(芸術)(芸術)	1.07	—	1.14	1.06	—	平成27	同上	
芸術環境専攻	2	180	—	360	修士(芸術)(芸術)	1.06	—	1.06	1.06	—	令和5	同上	令和5年度新規設置(募集定員180人)
大学院芸術研究科博士課程	3	7	—	21	博士(芸術)(芸術)	1.04	—	1.28	0.80	—	平成12	同上	
芸術専攻	3	7	—	21	博士(芸術)(芸術)	1.04	—	1.28	0.80	—	平成12	同上	
芸術研究科[通信教育]													
芸術環境専攻(修士課程)	2	450	—	530	修士(芸術) 修士(芸術)	1.52	—	1.03	—	—	平成19	同上	令和5年度名称変更および入学定員増(370人)

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
 (様式のうち、記載する必要がない学校種は削除してください。)
- ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後)」には、「平均入学定員超過率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」附則第2項及び第4項に該当する入学者の控除後の「平均入学定員超過率」を記入してください。
 なお、「平均入学定員超過率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除該当者がいない場合は、「—」としてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和6年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合は、「—」としてください。
 - ・「平均入学定員超過率(控除後含む)」及び「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<芸術研究科 芸術環境専攻>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤博一 (60) <令和5年4月> 修士(工学)
		芸術文化論特論1 芸術文化論特論2 芸術環境分野特論1 芸術環境分野特論2 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	君野隆久 (60) <令和5年4月> 修士(学術)
		芸術文化論特論1 芸術文化論特論2 芸術環境分野特論5 芸術原論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	大西宏志 (57) <令和5年4月> 学士(教育学)
		芸術環境原論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

【令和5年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	佐藤博一 (61) <令和5年4月> 修士(工学)
		芸術文化論特論1 芸術文化論特論2 芸術環境分野特論1 芸術環境分野特論2 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	君野隆久 (61) <令和5年4月> 修士(学術)
		芸術文化論特論1 芸術文化論特論2 学術基礎3 芸術環境分野特論5 芸術原論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	大西宏志 (58) <令和5年4月> 学士(教育学)
		芸術環境分野特論1 芸術環境原論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小野暁彦 (58) ＜令和5年4月＞ 学士（工学）
		芸術環境原論2 芸術環境分野特論3 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	服部滋樹 (52) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術学）
		芸術環境原論3 芸術環境分野特論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	河合健 (58) ＜令和5年4月＞ 修士（農学） 米国美術修士 M.F.A（アメリカ） 米国ランドスケープデザイ ン修士M.L.A （アメリカ）
		芸術環境原論4 芸術環境原論5 芸術環境分野特論4 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2 建築実務演習1 建築実務演習2 建築実務演習3 建築実務演習4 建築実務演習5 建築総合演習 建築総合研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小野暁彦 (59) ＜令和5年4月＞ 学士（工学）
		芸術環境分野特論4 芸術環境原論2 芸術環境分野特論3 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	服部滋樹 (53) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術学）
		芸術環境原論3 芸術環境分野特論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	河合健 (59) ＜令和5年4月＞ 修士（農学） 米国美術修士 M.F.A（アメリカ） 米国ランドスケープデザイ ン修士M.L.A （アメリカ）
		芸術環境原論4 芸術環境原論5 芸術環境分野特論3 芸術環境分野特論4 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2 建築実務演習1 建築実務演習2 建築実務演習3 建築実務演習4 建築実務演習5 建築総合演習 建築総合研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	本間正人 (63) ＜令和5年4月＞ Ph. D. [University of Minnesota] アメリカ
		芸術環境分野特論6 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	村上聡 (63) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	荒川朱美 (66) ＜令和5年4月＞ 修士（家政学）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	保科豊巳 (70) ＜令和5年4月＞ 修士（美術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	辻井南青紀（直樹） (55) ＜令和5年4月＞ 学士（文学）
		学術基礎2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	村上聡 (64) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	保科豊巳 (71) ＜令和5年4月＞ 修士（美術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	辻井南青紀（直樹） (56) ＜令和5年4月＞ 学士（文学）
		学術基礎2 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	河上(清水)眞理 (59) ＜令和5年4月＞ Ph. D. [Universita' Ca' Foscari di Venezia] イタリア
		芸術原論3 学術基礎3 学術基礎5 学術基礎6 学術基礎7
専	准教授	上林壮一郎 (55) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）
		芸術環境原論1
専	准教授	齋藤亜矢 (44) ＜令和5年4月＞ 博士（美術）
		芸術原論6 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	准教授	Eric Luong (47) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		学術基礎4
兼任	教授	松井利夫 (68) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術）
		芸術環境原論3 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	河上(清水)眞理 (60) ＜令和5年4月＞ Ph. D. [Universita' Ca' Foscari di Venezia] イタリア
		芸術原論4 芸術原論3 学術基礎3 学術基礎5 学術基礎6 学術基礎7
専	准教授	上林壮一郎 (56) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）
		芸術環境原論1 芸術環境分野特論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	齋藤亜矢 (45) ＜令和5年4月＞ 博士（美術）
		芸術原論6 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	Eric Luong (48) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		学術基礎4
専	教授	松井利夫 (69) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術）
		芸術環境分野特論6 芸術環境原論3 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	上村博 (59) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		芸術環境原論3 芸術環境原論4 比較芸術環境論演習
兼任	教授	加藤友規 (56) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		芸術環境原論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	後藤繁雄 (68) ＜令和5年4月＞ 学士（文学）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	浅田彰 (66) ＜令和5年4月＞ 修士（経済学）
		芸術原論1

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	上村博 (60) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		芸術環境原論3 芸術環境原論4 制作行為原論1 制作行為原論3 制作行為原論5 制作行為原論6 芸術環境原論5 芸術環境分野特論6 比較芸術環境論演習 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	後藤繁雄 (69) ＜令和5年4月＞ 学士（文学）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	浅田彰 (67) ＜令和5年4月＞ 修士（経済学）
		芸術原論1

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	ヒロ杉山 (61) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒業
		芸術環境分野特論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	岸和郎 (73) ＜令和5年4月＞ 修士（建築）
		芸術原論6
専	教授	伊藤桂司 (65) ＜令和5年4月＞ 専門学校卒業
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	佐藤淳 (69) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	岩崎正嗣 (56) ＜令和5年4月＞ 博士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	木村元彦 (54) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）
		芸術環境分野特論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	杉山潔 (61) ＜令和5年4月＞ 学士（社会学士）
		芸術環境分野特論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	准教授	ごとう（後藤）隼平 (43) ＜令和5年4月＞ 大学中退
		芸術環境分野特論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	准教授	田中友子 (52) ＜令和5年4月＞ 学士（映画学）
		芸術環境分野特論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	准教授	中村古都子 (55) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	大橋彩子 (42) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境分野特論1 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	講師	塩津みゆき (32) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	准教授	熊倉早苗 (63) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		芸術環境分野特論4 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	丹羽隆志 (44) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）
		芸術環境分野特論3 芸術環境分野特論4 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	講師	浦田友博 (30) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）
		芸術環境原論2 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	青木芳昭 (69) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒業
		制作行為原論2
兼任	准教授	下村泰史 (58) ＜令和5年4月＞ 博士（農学）
		芸術環境原論2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	伊原慶 (42) ＜令和5年4月＞ 修士（建築学）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	教授	吉村理 (48) ＜令和5年4月＞ 修士（工学）
		芸術環境分野特論3 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
専	准教授	今井隆介 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（人間・環境学）
		芸術環境分野特論1 芸術環境原論4 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	青木芳昭 (70) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒業
		制作行為原論2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	小杉宰子 (51) ＜令和5年4月＞ 学士（美術）
		芸術環境研究2
兼任	准教授	増渕麻里耶 (43) ＜令和5年4月＞ 博士 〔University College London〕 イギリス
		芸術原論2
兼任	准教授	森田都紀 (46) ＜令和5年4月＞ 博士（音楽学）
		制作行為原論6
兼任	講師	岡田落子 (37) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）
		制作行為原論4
兼任	講師	江本紫織 (33) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）
		制作行為原論5

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	小杉宰子 (52) ＜令和5年4月＞ 学士（美術）
		芸術環境分野特論3 建築実務演習1 建築実務演習2 建築実務演習3 建築実務演習4 建築実務演習5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	准教授	増渕麻里耶 (44) ＜令和5年4月＞ 博士 〔University College London〕 イギリス
		芸術原論2
兼任	准教授	森田都紀 (47) ＜令和5年4月＞ 博士（音楽学）
		制作行為原論6
兼任	講師	岡田落子 (38) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）
		制作行為原論4 芸術環境分野特論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	江本紫織 (34) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）
		制作行為原論5 芸術環境分野特論5

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	伊達伸明 (59) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術）
		芸術環境分野特論6
兼任	准教授	戸坂明日香 (40) ＜令和5年4月＞ 博士（美術）
		芸術原論6
兼任	教授	ヤノベケンジ (58) ＜令和5年4月＞ 修士（美術）
		芸術原論6
兼任	教授	吉岡洋 (67) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		芸術原論6
兼任	教授	吉川左紀子 (69) ＜令和5年4月＞ 博士（教育学）
		芸術原論6
兼任	教授	河島茂生 (46) ＜令和5年4月＞ 博士（学際情報学）
		制作行為原論3

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	棕本輔 (44) ＜令和5年4月＞ 修士（情報学）
		制作行為原論3
兼任	教授	原島大輔 (39) ＜令和5年4月＞ 修士（学術）
		制作行為原論3
兼任	教授	中村肇 (39) ＜令和5年4月＞ 修士（社会情報学）
		制作行為原論3
兼任	准教授	石鍋大輔 (59) ＜令和5年4月＞ 修士（事業構想）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	北小路隆志 (61) ＜令和5年4月＞ 修士（経済学）
		芸術環境分野特論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	家成俊勝 (49) ＜令和5年4月＞ 学士（法学）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	岡村寛生 (55) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	風間重之 (59) ＜令和5年4月＞ 学士（造形）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	准教授	酒井洋輔 (43) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	准教授	中田泉 (51) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	根之木正明 (64) ＜令和5年4月＞ 修士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	松本尚子 (48) ＜令和5年4月＞ 学士（建築）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	遠藤水城 (50) ＜令和5年4月＞ 学士（学術）
		芸術原論4

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	藤原裕三 (64) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	丸井栄二 (55) ＜令和5年4月＞ 学士（短期大学士）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	見増勇介 (43) ＜令和5年4月＞ 学士（芸術）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	松本尚子 (49) ＜令和5年4月＞ 学士（建築）
		芸術環境分野特論3 芸術環境分野特論4 建築総合演習 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	教授	遠藤水城 (51) ＜令和5年4月＞ 学士（学術）
		芸術原論4 芸術原論6

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	並木誠士 (67) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		制作行為原論1
兼任	講師	赤島八生 (36) ＜令和5年4月＞ 学士（文学）
		学術基礎1
兼任	講師	土田真紀 (63) ＜令和5年4月＞ 博士（文化交渉学）
		芸術環境原論6
兼任	講師	小林真理 (67) ＜令和5年4月＞ 専修学校卒
		芸術環境分野特論2
兼任	講師	生井亮司 (48) ＜令和5年4月＞ 博士（美術）
		芸術環境分野特論6

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	並木誠士 (68) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		制作行為原論1 芸術原論3
兼任	講師	赤島八生 (37) ＜令和5年4月＞ 学士（文学）
		学術基礎1 学術基礎2
兼任	講師	土田真紀 (64) ＜令和5年4月＞ 博士（文化交渉学）
		芸術環境原論6
兼任	教授	岡田文男 (69) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		芸術原論2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	原木万紀子 (35) ＜令和5年4月＞ 博士（医学）
		芸術原論6
兼任	講師	吉村政人 (57) ＜令和5年4月＞ 学士（文学）
		制作行為原論1
兼任	講師	山里奈津実 (33) ＜令和5年4月＞ 博士（芸術）
		制作行為原論2
兼任	講師	牧野真理 (44) ＜令和5年4月＞ 修士（言語文化学）
		学術基礎1
兼任	講師	田野茜 (28) ＜令和5年4月＞ 学士（国語学）
		学術基礎2
兼任	講師	藪可耶子 (36) ＜令和5年4月＞ 学士（人文学）
		学術基礎2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	竹内淳之介 (34) ＜令和5年4月＞ 修士（文学）
		学術基礎2
兼任	講師	内田元一 (34) ＜令和5年4月＞ 修士（日本語教育学）
		学術基礎2
兼任	講師	糠野永未子 (49) ＜令和5年4月＞ 修士（言語文化学）
		学術基礎5
兼任	教授	尼崎博正 (77) ＜令和5年4月＞ 修士（農学）
		芸術環境分野特論4
兼任	講師	久慈達也 (45) ＜令和5年4月＞ 修士（国際文化）
		芸術環境分野特論5 芸術環境分野特論6
兼任	講師	鈴木賢子 (55) ＜令和5年4月＞ 修士（美術）
		芸術環境分野特論5

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	田中晋平 (42) ＜令和5年4月＞ 博士（芸術文化学）
		芸術環境分野特論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	石川優 (41) ＜令和5年4月＞ 博士（文学）
		芸術環境分野特論5 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	染谷聡 (40) ＜令和5年4月＞ 博士（美術）
		芸術環境分野特論6
兼任	講師	北桂樹 (46) ＜令和5年4月＞ 博士（学術）
		芸術環境分野特論6 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	大橋文男 (60) ＜令和5年4月＞ 博士（美術）
		芸術環境分野特論6 芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	細井雄二 (73) ＜令和5年4月＞ 高等学校卒業
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	奥山理子 (37) ＜令和5年4月＞ 大学中退
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	トムヴィンセント (56) ＜令和5年4月＞ Bachelor [University of California Santa Barbara] アメリカ
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2
兼任	講師	伊藤弘了 (34) ＜令和5年4月＞ 修士（人間・環境学）
		芸術環境演習1 芸術環境演習2 芸術環境研究1 芸術環境研究2

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。

その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。

- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。（注）
 - ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
- ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【令和5年度】

・小野 隆久 教授：佐藤 博一 教授1名による科目を全体統括とするため「芸術文化論特論1・2」を削除。教育課程の見直しに伴い「学術基礎3」を追加。
・大西 宏志 教授：オムニバス科目である「芸術環境分野特論1」の担当を追加。
・小野 晴彦 教授：オムニバス科目である「芸術環境分野特論4」の担当を追加。担当科目の見直しに伴い「芸術環境演習2」「芸術環境分野特論3」「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」の削除。
・服部 退樹 教授：担当科目の見直しに伴い、「芸術環境分野特論5」の削除。
・河合 健 教授：オムニバス科目である「芸術環境分野特論3」の担当を追加。担当科目の見直しに伴い、「芸術環境原論4」「建築実務演習1」「建築実務演習2」「建築実務演習3」「建築実務演習4」「建築実務演習5」の削除。
・本間 正人 教授：退職
・荒川 朱美 教授：未就任
・辻井 南青紀(直樹) 教授：所属変更のため「専任」から「兼任」に変更。担当科目の見直しに伴い「学術基礎2」を削除。院生指導担当のため、「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。
・河上 清水 眞理 教授：担当科目の見直しに伴い「芸術原論4」を追加。「芸術原論3」「学術基礎3」「学術基礎5」を削除。
・小林 壮一郎 准教授：オムニバス科目である「芸術環境分野特論1」の担当を追加。院生指導担当のため、「芸術環境演習1」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。
・齋藤 垂矢 教授：昇任のため「准教授」から「教授」に変更。
・Eric Luong 准教授：退職のため「専任」から「兼任」に変更。
・松井 利夫 教授：所属変更のため「兼任」から「専任」に変更。オムニバス科目である「芸術環境分野特論3」の担当を追加。担当科目の見直しに伴い、「芸術演習3」を削除。
・上村 博 教授：担当科目の見直しに伴い、「芸術環境原論4」を削除。「制作行為原論1」「制作行為原論3」「制作行為原論5」「制作行為原論6」「芸術環境原論5」を追加。オムニバス科目である「芸術環境分野特論6」の担当を追加。院生指導担当のため、「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。
・加藤 友規 教授：教育課程の見直しに伴い、科目担当なし。
・佐藤 繁雄 教授：所属変更のため「兼任」から「専任」に変更。
・ヒロ 杉山 教授：「専任」として専任し「芸術環境分野特論1」「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を担当。
・岸 和郎 教授：「専任」として専任し「芸術原論6」を担当。
・伊藤 桂司 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を担当。
・佐藤 淳 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を担当。
・岩崎 正嗣 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を担当。
・木村元彦 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論1」を担当。
・杉山 薫 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論1」を担当。
・ことう(後藤) 恵平 准教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論1」を担当。
・田中 友子 准教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論1」を担当。
・大橋 彩子 講師：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論1」を担当。
・遠藤 みゆき 講師：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を担当。
・飯倉 俊博 准教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論1」を担当。
・丹羽 隆志 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論3」「芸術環境分野特論4」を担当。
・浦田 友博 講師：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を担当。
・伊藤 慶 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を担当。
・吉村 理 教授：「専任」として専任し「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論3」を担当。
・今井 隆介 准教授：「専任」として専任し「芸術環境原論4」「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」及びオムニバス科目である「芸術環境分野特論1」を担当。
・小杉 肇子 教授：所属変更のため兼任から専任に変更。昇任のため職名を「准教授」から「教授」に変更。担当科目の見直しに伴い「建築実務演習1」「建築実務演習2」「建築実務演習3」「建築実務演習4」「建築実務演習5」を追加。院生指導担当のため「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」を追加。オムニバス科目である「芸術環境分野特論2」を追加。
・岡田 麻子 講師：院生指導担当のため「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。オムニバス科目である「芸術環境分野特論5」を担当。
・江本 紫織 講師：オムニバス科目である「芸術環境分野特論5」を追加。
・伊達 伸明 教授：「兼任」としてオムニバス科目である「芸術環境分野特論6」を担当。
・伊藤 明日香 准教授・ヤベ ケンジ 教授・吉岡 洋 教授・吉川 宏紀子 教授：「兼任」として「芸術原論6」を担当。
・河島 茂生 教授・橋本 輔 教授・星島 大輔 教授・中村 肇 教授：「兼任」として「制作行為原論3」を担当。
・石崎 大輔 准教授・家成 俊勝 教授・岡村 寛生 准教授・風間 重之 教授・酒井 洋輔 准教授・中田 泉 准教授・根之木 正明 教授・藤原 裕三 教授・丸井 栄二 教授・見増 勇介 講師：「兼任」として院生指導担当のため「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。
・松本 尚子 講師：採用に伴い「兼任」から「兼任」に変更。オムニバス科目である「芸術環境分野特論3」「芸術環境分野特論4」を追加。担当科目の見直しに伴い「建築総合演習」を追加。
・遠藤 水城 教授：担当科目の見直しに伴い「芸術原論4」を削除。「芸術原論6」を追加。
・並木 健士 講師：担当科目の見直しに伴い「制作行為原論1」を削除。「芸術原論3」を追加。
・赤島 八生 講師：担当科目の見直しに伴い「学術基礎2」を追加。・小林 真理 講師・生井 美司 講師：担当科目の見直しに伴い、科目担当なし。
・岡田 文男 教授：「兼任」として「芸術原論2」を担当。
・栗木 万紀子 講師：「兼任」として「芸術原論6」を担当。
・吉村 政人 講師：「兼任」として「制作行為原論1」を担当。
・山重 奈津実 講師：「兼任」として「制作行為原論2」を担当。
・牧野 真理 講師：「兼任」として「学術基礎1」を担当。
・田野 吾 講師・蔵 可那子 講師・竹内 清之介 講師・内田 元一 講師：「兼任」として専任し「学術基礎2」を担当。
・鶴野 永未子 講師：「兼任」として「学術基礎5」を担当。
・尼崎 博正 教授：「兼任」としてオムニバス科目である「芸術環境分野特論4」を追加。
・久慈 達也 講師：「兼任」としてオムニバス科目である「芸術環境分野特論5」「芸術環境分野特論6」を追加。
・飯本 賢子 講師：「兼任」としてオムニバス科目である「芸術環境分野特論5」を担当。
・田中 晋平 講師・石川 優 講師：「兼任」としてオムニバス科目である「芸術環境分野特論3」を担当。院生指導担当のため「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。
・染谷 聡 講師：「兼任」としてオムニバス科目である「芸術環境分野特論6」を担当。
・北 佳樹 講師・大岡 文男 講師：「兼任」としてオムニバス科目である「芸術環境分野特論6」を担当。院生指導担当のため「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。
・梶井 雄二 教授・奥山 理子 講師・トム ヴァンセント 講師・伊藤 弘子 講師：「兼任」として院生指導担当のため「芸術環境演習1」「芸術環境演習2」「芸術環境研究1」「芸術環境研究2」を追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、**大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。ＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和4年度開設であれば令和3年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
19 名	13 名	10 名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設 置 時 の 計 画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （A）	助手 （A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （B）	助手 （B'）
18 (45)	7 (13)	9 (30)	0 (0)	34 (88)	0 (0)	45	13	30	0	88	0
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
23 (48)	18 (34)	11 (18)	0 (22)			48	34	18	22		
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 （C）	助手 （C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計 （D）	助手 （D'）
45 [27]	13 [6]	30 [21]	0 [－]	88 [54]	0 [－]	45 [27]	13 [6]	30 [21]	0 [－]	88 [54]	0 [－]
研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数			研究指導教員数	うち教授数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数		
48 [25]	34 [16]	18 [7]	22 [22]			48 [25]	34 [16]	18 [7]	22 [22]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員 うち、定年を延長 して採用する教員数
65 歳	14 名	14 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{88}{34} = \boxed{258.82} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{14}{88} = \boxed{15.9} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	教授	本間 正人	R5.3	選択	芸術環境分野特論6	①	R5.3退職のため未就任（4）			
				選択	芸術環境演習1	①				
				選択	芸術環境演習2	①				
				選択	芸術環境研究1	①				
				選択	芸術環境研究2	①				
2	教授	荒川 朱美	R5.3	選択	芸術環境演習1	①	R5.3専門領域に精通する教員を別途任用のため未就任（4）			
				選択	芸術環境演習2	①				
				選択	芸術環境研究1	①				
				選択	芸術環境研究2	①				
3	教授	辻井 南青紀(直樹)	R5.3	選択	学術基礎2	②	R5.3専門領域に精通する教員を別途任用のため未就任（4）			
4	准教授	Eric Luong	R5.3	選択	学術基礎4	②	R5.3専門領域に精通する教員を別途任用のため未就任（4）			
合計（D）						後任補充状況の集計（E）				
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
4	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	11	科目	選択	9	科目	選択	2	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	9	科目	計	2	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した**全ての専任教員**の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、**赤字**にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）					後任補充状況の集計（E）＋（G）								
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
4	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	11	科目	選択	9	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	11	科目	計	9	科目	計	2	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③合計(D)+(F)}{(2) - ②設置時の計画(A)} = \frac{4}{25} = 16\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和4年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
・ 令和5年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計				後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。
・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び() 書きで報告年度を記入してください。
・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

本間正人教授、荒川朱美教授の未就任に際し、下記の通り対応を行った。 ・ 入学時のガイダンス等で別途専門領域に精通した教員を採用し、指導教員として就任する旨学生に対し周知を行った。 ・ 開設前の決定であったため、指導教員の変更等、期中における学生の不利益は発生していないものとする。
--

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。

【令和4年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和4年度報告書の記載内容を転記し文末に「（４）（５）」と記載してください。

【令和5年度から新たに調査対象となった学科等又は令和4年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（５）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<芸術研究科 芸術環境専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
変更なし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学では、教育研究活動に関する事項を恒常的に審議・決定する機関として、「京都芸術大学学長会規程」に基づき学長を議長とする「学長会」を設置している。

学部及び研究科の教育改革を達成するためのマネジメント及び、学位プログラムレベルにおける教育研究活動の継続的な改善を推進することを目的として「京都芸術大学教育推進会議規程」に基づく会議体として「教育推進会議」を設置している。

研究科における教授会としては「京都芸術大学教授会規程」及び「京都芸術大学大学院研究科委員会規程」に基づく大学院における教授会として「研究科委員会」を設置しており、研究科所属の教員が教育活動に意見を述べることのできる体制を整備している。

全学的なFD・SDの推進を目的とした委員会としては「FD委員会」を設置している。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

「学長会」は学長、副学長、研究科長、学部長、理事長、財務担当理事、事務総局長、事務局長をもって構成し、学長を議長として毎週定例に開催している。

「教育推進会議」は副学長、芸術研究科長、芸術学部長、事務局長、教学支援一課長、教学支援二課長、教学支援三課長、アドミッション・オフィス課長、キャリア支援課長、その他副学長が必要と認める者をもって構成し、副学長を議長として毎週定例に開催している。

「研究科委員会」は、学長、研究科長、専攻長、研究科の研究指導を担当する教授又は准教授の中から、学長が任命する者、その他学長が必要と認める者をもって構成し、研究科長を議長として委員会があらかじめ定める時期に開催をしている。

「FD委員会」は、FD部長、教授、准教授、専任講師の中から学部長が任命した者、その他学部長が必要と認める者をもって構成し、FD部長を議長として委員会があらかじめ定める時期に開催をしている。

c 委員会の審議事項等

「学長会」は、（１）教育研究に係る中期計画の策定に関すること、（２）３つのポリシーの改訂に関すること、（３）学部及び研究科の方針に関すること、（４）教学に係る内部質保証に関すること、（５）学生の入学、修学、学生生活及び進路に関すること、（６）その他学長が必要と認める事項について審議する。

「教育推進会議」は（１）中期計画の推進に関すること、（２）３つのポリシーに基づく教育研究活動の点検・評価に関すること、（３）アセスメントプランに基づく教育研究活動の点検・評価に関すること、（４）教育課程編成に関すること、（５）教育計画、教育総括に関すること、（６）入学試験に関すること、（７）学生支援に関すること、（８）進路教育に関すること、（９）社会実装教育に関すること、（１０）国際交流に関すること、（１１）その他学長会からの諮問事項について基本方針及び改善施策を策定し、学長会に上程する。

「研究科委員会」は、（１）学生の入学及び課程の修了に関する事項、（２）学位の授与に関する事項、（３）前２号に掲げるもののほか、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものについて意見を述べる。

「FD委員会」は、（１）組織的かつ体系的なFD活動の企画、運営、（２）各部署が実施するFD活動に対する支援、（３）FDに関する他大学やコンソーシアム等との連携、（４）FDに関する調査、資料収集及び分析、（５）その他FDに関連する事項について審議し、実施する。

② 実施状況

a 実施内容

1. ウェルカム研修
2. カリキュラム・マネジメントI
3. 授業デザインI
4. カリキュラム・マネジメントII
5. コーチング研修
6. グッドティーチャー参観
7. 授業デザインII
8. 授業カイゼン（秋）
9. 授業デザインIII
10. 東北芸術工科大学 合同FD研修 「ルーブリックの理論と実践」

b 実施方法

1. ウェルカム研修【対面＋オンライン（Zoom）】
はじめに・自己紹介／芸術学部方針、教育目標について／高等教育の現状・課題について／学生募集について／進路の質・キャリア目標について／学生生活支援、学生会活動について／FD研修について／ハラスメント防止について／キャンパスツアー／ふりかえり、アンケート
2. カリキュラム・マネジメントI【オンライン（Zoom）】
大学におけるカリキュラムの特徴と編成原理／カリキュラムマネジメントの必要性／カリキュラムマップとカリキュラムツリー／本学のカリキュラムの特徴・課題／グループディスカッション
3. 授業デザインI【オンデマンド配信】
授業デザインの基本／シラバスの作成方法／成績評価の方法
4. カリキュラム・マネジメントII【対面】
ガイダンス／各学科のカリキュラムツリーの再確認／ディスカッション／カリキュラムツリーの作成／発表／総評
5. コーチング研修【オンライン（Zoom）】
学習学について／最新学習歴について／傾聴について／ヒーローインタビュー疑似体験／ティーチングとコーチングの違いについて
6. グッドティーチャー参観【対面・オンデマンド配信】
対面及びオンデマンド配信にて、計27科目の授業参観を実施。
7. 授業デザインII【オンデマンド配信】
カリキュラム 発展編／評価 発展編／授業振り返りのポイント
8. 授業カイゼン（秋）【対面】
テーマ別ディスカッション「シラバスについて」「授業手法・運営」「オンライン授業について」「有意義な授業とは」「課題・評価」
9. 授業デザインIII【オンライン（Zoom）】
全体ガイダンス／勉強会／到達目標と授業概要／合同中間報告／シラバス作成／合同報告会／学内研修報告会
10. 東北芸術工科大学 合同FD研修 「ルーブリックの理論と実践」【オンライン（Zoom）】
講義「ルーブリックとは？」／個人ワーク「課題の評価」／グループワーク／まとめ

c 開催状況（教員の参加状況含む）

1. ウェルカム研修…2022年4月1日（金）／参加者11名
2. カリキュラム・マネジメントI…2022年4月21日（木）／参加者30名
3. 授業デザインI…オンデマンド配信／参加者15名
4. カリキュラム・マネジメントII…2022年5月21日（土）／参加者22名
5. コーチング研修…2022年5月26日（木）／参加者29名
6. グッドティーチャー参観…2022年7月7日（木）～9月21日（水）／参加者88名
7. 授業デザインII…オンデマンド配信／参加者13名
8. 授業カイゼン（秋）…2022年10月6日（木）／参加者37名
9. 授業デザインIII…4月8日（金）～8月25日（木）／参加者19名
10. 東北芸術工科大学 合同FD研修 「ルーブリックの理論と実践」…2023年1月12日（木）／参加者72名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. カリキュラム・マネジメントに関する基礎理論獲得に基づくカリキュラム・レベルにおける教育計画の点検・評価及び改善活動
2. 教育活動に係る基礎理論の獲得による科目レベルにおける教育活動の質向上
3. 学内外の有効な取り組み事例の共有・展開による科目レベルにおける教育活動の質向上

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

全修士2年次生に対し、毎年度5月に前年度に開講したすべての授業科目について「授業改善アンケート」を実施。授業品質に関する定量的な評価を行うとともに、フリーコメントによって定量的評価では見えづらい学生個々の教育活動に対する改善要望を抽出している。本アンケートの結果は事務局による取りまとめを経て研究科委員会において共有し、教育活動の点検・評価及び改善の参考資料として活用している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

大学院担当教員に対しては、研究科委員会に出席する研究科委員を通じて内容の共有がなされるとともに、各領域における教育活動に係る改善活動の参考資料として活用される。学生に対しては、アンケート結果に対する改善の見通しや疑問点への回答など専攻長からの所見を付して、Googleクラスルームを通じて学生に対してフィードバックを行っている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本専攻は、モノや空間の設計、サービス提供や情報伝達のかたちの創案など、デザインの領域がこれからの我が国の文化、産業、社会にとってますます重要性を高めていくであろうことを前提に、学術論文の執筆者や芸術作品の創造者だけではなく、人間の生活環境を構成するさまざまな要素のありかたを探究し、個人の行動や社会の機能に新たな可能性を提供できる環境を創出することによって社会に貢献できる人材の育成を目指している。

令和5（2023）年度入学者選抜においては、入学定員180名に対して志願者数は765名となった。このことは、すなわち上記に記載した本専攻の趣旨・目的に対する社会的な支持の証左であると考えている。

引き続き、本専攻の掲げる育成人材像に合致した有為の人材を輩出すべく、設置計画に基づき教育活動を推進していく。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和5（2023）年10月31日

b 公表方法

・自己点検・評価報告書を作成し大学ホームページ上に公開予定（令和5（2023）年10月31日を予定）

③ 認証評価を受ける計画

・令和6年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受審予定

（注）・設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和5年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他（ ）]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。